

市内の高校で唯一の演劇部が継続的に活動

身近な詐欺被害、演劇で伝えたい

県立川西明峰高校の演劇部は、特殊詐欺を題材とした創作劇を地域で披露するなど、地域での詐欺被害を減らそうと活動。その取り組みが認められ、29年度には「ひょうご地域安全まちづくり活動賞」を受賞しています。活動にける思いを聞きました。

県立川西明峰高校の2年生で演劇部の部長を務める福田みづきさん。昨年、東谷小学校の体育館でオレオレ詐欺をテーマに劇を披露した際、福田さんは詐欺被害に遭いそうになる高齢者の役を演じました。

「劇の内容は若者がおばあちゃんをだますというもの。最初に台本を読んだとき、状況によってはこんなにも簡単に詐欺に引っかかってしまうんだと驚きました」

演劇部がこの取り組みを始めたのは約2年前。きっかけは、特殊詐欺撲滅の啓発活動

オレオレ詐欺をテーマに みんなで試行錯誤しています



川西明峰高校演劇部 部長
福田みづきさん

の一環として、地域で創作劇をしてほしいという川西警察署からの依頼でした。

「市内の高校で唯一の演劇部なので、声が掛かったと聞いています。高齢者の皆さんの前で劇を披露することが多いです。言葉遣いを丁寧にしたり、声をいつもより大きく出したり、分かりやすく伝えられるように、みんなで試行錯誤しながら練習しています。シナリオも少しひねりを加えたものですし、楽しみながら特殊詐欺のことを知ってもらえるとうれしいです」

この劇をきっかけに、自身も特殊詐欺のことを考えるようになったと福田さんは

話します。

「インターネットニュースなどで「詐欺」という言葉を見つけると気になるようになってきましたね。それに、自分のスマートフォンにも架空請求のメールが来ることもあるんです。授業で危険性は教わっていたので、周りでも詐欺に引っかかったという人はいません。それでも、今まで以上に注意しないといけないなと感じました。劇をきっかけに、家族とも特殊詐欺の話をしたんです。この創作劇を通して特殊詐欺のことを少しでも多くの人に知ってもらって、みんなと一緒に気を付けていければと思います」

Interview 詐欺撲滅のきっかけになれば

川西明峰高校演劇部 顧問 田中 大樹さん

前の顧問からこの活動を引き継ぎました。学校としても地域貢献は大切な役目の一つなので、特殊詐欺を題材にした演劇は大切な活

動だと思っています。

今は始めた当初と同じシナリオを使っていますが、時代とともに特殊詐欺の手口も移り変わるので、それに合わせてシナリオを変更することも考えています。

詐欺被害に遭う人を少しでも減らすきっかけになるよう、継続的に活動していきたいですね。



特集 詐欺を地域で防ぐ

振り込め詐欺に代表される「特殊詐欺」。高齢者を中心に被害に遭う人が多く、社会問題となっています。また、成人年齢の引き下げなども検討される中、若者の間で消費者被害が増える恐れもあり、詐欺被害が拡大することも懸念されます。そうした中、市内では、高校生や地域団体が詐欺防止のための活動を展開。特殊詐欺撲滅のために動き出しています。（写真＝県立川西明峰高校演劇部の練習風景）

問い合わせ 生活相談課 ☎(740)1333

特殊詐欺とは…不特定の人に対して対面することなく、電話やファクス、メールなどを使って行う詐欺のこと。「オレオレ詐欺」や「還付金等詐欺」などの振り込め詐欺と、「ギャンブルの必勝情報提供等を口実とした詐欺」などの振り込め類似詐欺に分けられます。

まちを守つていくのは私たち

市内では架空請求詐欺などが多発するなど、日常的に特殊詐欺が発生しています。そんな中、詐欺による被害を防止するために、川西防犯協会をはじめ市民の皆さんが活動しています。活動内容や地域での詐欺の実情について話を聞きました。

「地域の安全を守るためには、地域住民が動かなければなりません。まちのことを一番よく知っているのは私たちですから。一人でも多くの人を危険から守るために活動しています」

そう話すのは、川西防犯協会会長の野田大東さん。退職してから本格的に防犯協会でのボランティア活動に取り組み始めました。

「会長を務めて今年で2年目になります。現在、川西市に15支部と猪名川町の3支部あり、合計で約450人のメンバーが所属しています」
同協会の主な活動内容は、青色回転灯搭載車（青パト）での防犯パトロールや街頭啓発活動、防犯講習会の実施な

ど。安全・安心なまちづくりを進めていくためには、警察や行政、コミュニティ組織、自治会などとの連携が不可欠だと野田さんは話します。

「警察とは毎日のように連絡を取っていますね。地域の防犯情報を取りまとめて、定期的にファクスで関係団体に流すようにしています。日頃から情報共有しておくことで、いざというときに円滑に連携できるようにしています。地域ではひっきりなしに架空請求のハガキが届いたり、オレオレ詐欺の電話がかかってきたりしています。ターゲットになりやすい高齢者の皆さんには、自分がいつ狙われても不思議ではないと思つてほしいですね。詐欺は

人ごとではないんです」

川西防犯協会では、青パトでのパトロールの際、無人のATM機のある場所を重点的に見回すなど、詐欺被害を防ぐための活動をしています。

「携帯電話で通話しながらATMを操作している高齢者を見つければ、詐欺被害を食い止めたケースもあります。間一髪でしたが、止められることができて良かったです。その他にも、警察に協力してもらい啓発のチラシ配りしています。皆さん足を止めて、熱

心に話を聞いてくれますよ」

防犯講習会では、得意の落語で特殊詐欺に関する話をすることもある野田さん。徐々に詐欺防止への意識が地域に浸透していると話します。

「単なる講習ではなく、落語で楽しく特殊詐欺のことを知り、関心を持つてほしいと思つています。地道な活動の成果もあつてか、まちの体感治安は向上しているように感じます。犯罪に巻き込まれる人を減らすために、これからも活動していきますよ」

特殊詐欺は人ごとではありません



川西防犯協会 会長
野田 大東 さん

会議で情報を共有 地域と各機関を結ぶ

市生活安全推進連絡協議会 会長
武内 秀男 さん

平成11年6月、市条例の施行に伴い、市生活安全推進連絡協議会が発足されました。今年で19年目を迎えます。委員は各小学校区コミュニティ組織の代表者と防犯協会、交通安全協会、川西警察署、阪神北泉民局、日本郵政(株)、市の各部長など38人で構成。市役所で年に2回会議を開催していて、犯罪や事故、災害による被害などの未然・再発防止などに必要な活動の協議を行っています。参加している地域の皆さんにとっては、情報の交換と共有の大切な場となっているのではないのでしょうか。また、地域間での連携を密に行うきっかけにもなっている

と思います。それに、これだけ多様な人たちが集まることはなかなかないですし、普段は関わることの少ない地域と各機関を結ぶパイプのような役割も果たしています。会議では、まず川西警察署から犯罪の発生状況や概要の説明などを受けています。最近では、振り込め詐欺の被害情報やその手口についての情報が共有されることも多いですね。地域で抱えている課題などの要望についても受け、市など各組織で検討。2回目の会議で検討結果を発表してもらっています。私が会長を務めている清和台地区コミュニティ推進協議会でも、防犯啓発活動を実施。市生活安全推進連絡協議会で得た情報を、地域に還元するようにしています。



市と協力して 地域で出前講座

ボランティアグループ
消費者の強〜い味方アカンマン 代表
土田 淳子 さん

私たち「消費者の強〜い味方アカンマン」は、活動を始めから6年目を迎えます。消費生活センターの出前講座で身近な生活での契約トラブルなどについて、正しい知識をお伝えしています。最近では特に、高齢者を狙ったオレオレ詐欺なども取り上げ、被害に遭わないためのポイントを寸劇で呼び掛けています。1年に10回以上は地域に出向いていますね。皆さんに一番伝えたいのは、特殊詐欺で不安なことや消費生活トラブルがあれば、真っ先に消費生活センター

に相談してほしいということです。市役所に相談するのは、気後れする人が多いかもしれません。でも、相談員がどんなに小さなトラブルでも相談に乗ってくれますので、安心して利用できます。実は、私も消費生活センターによく相談しているんですよ。講座や消費生活センターをうまく活用してもらい、トラブルに巻き込まれないよう気を付けてもらえればうれしいですね。



特殊詐欺を防ぐためのポイント

ここでは、主な特殊詐欺の手口と防犯のポイントについて紹介します。

問い合わせ 川西警察署 ☎(755)0110

■息子や孫を名乗るオレオレ詐欺

具体的な手口 ①息子や孫を名乗り「風邪を引いた。声がおかしい」と電話する②「携帯電話の番号が変わった」と新たな番号を登録させる③後日、トラブル解決を名目に金銭を要求する。

防犯ポイント 必ず息子や孫の今知っている電話番号にかけ直して確認。「今日中にお金が必要」などと急ぐ話には注意してください。

■警察官を名乗るオレオレ詐欺

具体的な手口 ①警察官を名乗り「犯人を捕まえたら、あなた名義の通帳が発見された」と不安をあおる②安全な口座に移し替えるとうそをつき、預金を引き出すよう要求する③警察官や銀行協会などを名乗る人が、現金を受け取りに来る。

防犯ポイント 警察官や銀行協会などが現金やキャッシュカードを預かることはありません。個人情報や暗証番号を他人に教えるはいけません。

■サイト利用料金名目の架空請求詐欺

具体的な手口 ①インターネットを閲覧中、「登録完了しました」などと画面に表示される②電話などでコンビニに行くように指示され「電子マネーを購入し、番号を教えてください」「番号を言うのでコンビニで決済して」などと言われる。

防犯ポイント ホームページを閲覧しただけで料金請求されることはありません。「電子マネーの番号を教えてください」は詐欺なので、注意してください。

■医療費の還付金等詐欺

具体的な手口 ①市役所職員を名乗る人から「医療費を還付する手続きをしたのか。今日が締め切りなので、銀行から連絡がある」などの話がある②銀行員を名乗り、「還付金の支払いは今日までなので、携帯電話とキャッシュカードを持ってATMに行くように」と言われる③ATMを相手の指示通りに画面を操作すると、振り込み手続きをさせられる。

防犯ポイント 市役所や社会保険事務所などがATMの操作をお願いすることはありません。また、ATMを操作してお金が返ってくることは絶対にありません。

その他にも「融資保証金詐欺」や「ギャンブル必勝法情報提供名目の詐欺」など特殊詐欺の手口はさまざまです。特に、電話でのお金の話は注意してください。非通知の電話に出ない、留守番電話に設定し、内容が確認できるまで応答しないなどの対策を取り、必ず警察や家族、知人に相談してください。

地域団体の皆さんへ

防犯カメラの設置を補助

自治会やまちづくり防犯グループなどの地域活動団体が、地域内に防犯カメラを設置する際に、市と県から補助金を交付しています。それぞれ1カ所当たり上限8万円です。

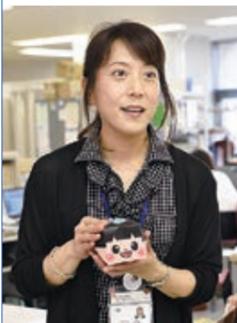
また、設置から5年以上経過した防犯カメラの更新時にも、市の補助金の対象となる場合があります。詳しくは市ホームページか、生活相談課 ☎(740)1333へ。

日頃の啓発や防犯活動に感謝

生活相談課長・消費生活センター所長 山口 順子

クラブ連合会や民生委員の皆さん、地域包括支援センターなどに、1人暮らしで高齢の皆さんへの声掛けやチラシの配布をお願いしています。なかなか詐欺を撲滅するまでには至りませんが、市内の特殊詐欺件数は減少。これは各種関係機関や団体、住民の皆さんの日頃からの啓発や防犯活動の成果だと感謝しています。

また、消費生活センターを身近に感じてもらうために「きんたくん」をデザインした風船折り紙の啓発チラシを作成し、窓口やイベントなどで配布しています。少しでも変だと思ったら、迷わず当センター ☎(740)1167に相談してください。



市内での特殊詐欺の実態

詐欺師が嫌うまちをめざす

市内での特殊詐欺被害。川西警察署を中心に、犯人の巧妙な手口に対抗する取り組みをしています。市内での特殊詐欺の状況について、同警察署生活安全課課長の安藤正樹さんに話を聞きました。

市で発生している特殊詐欺の多くは、「オレオレ詐欺」「還付金等詐欺」。昨年は川西警察署管内で39件、総額で約8886万円の被害がありました。犯罪全体の件数は減ってきているのに、特殊詐欺の件数自体は増加傾向にあったんです。そのため今以上に、特殊詐欺対策に力を入れていきます。

地域での詐欺を抑止するためには、行政や事業者、市民団体などと連携していくことが不可欠ですね。例えば、金融機関に対しては、高齢者の高額出金があった場合、まずは警察に連絡するよう依頼しています。連絡があったときはすぐに私たちが駆けつけるので、詐欺の防止につながることも少なくないですよ。

さらに、近頃増えているのが、電子マネー詐欺。高額購入された場合は同様の対応をするよう、コンビニなどにも伝えていきます。

か、今年の特特殊詐欺の件数は昨年の同月対比で12件減少しています。また、相談件数は191件となっていて、兵庫県下でもトップクラスの数字。相談が多いということは、詐欺が未遂で食い止められているということ。市民の皆さんの防犯意識の高さが伺えますね。市や自治会が設置している防犯カメラの効果もあり、着実に地域の治安は向上していると感じます。

被害は減少していますが、気を抜いてはいけません。電話やハガキなどで少しでも不審だと思ったら、まずは川西警察署に連絡を入れてほしいと思います。



Aさんのまさか自分が事例だまされるなんて

市内に住んでいる72歳の女性、Aさん。今年、特殊詐欺の被害に遭いかけました。その時の具体的な様子について、話を聞きました。

すっかり息子からの電話だと信じ込んでしまいました

実は、オレオレ詐欺の電話がかかってきたのは2度目。約3年前はだまされなかったのに、被害に絶対遭わないと思っていたんです。

3月のある日の夜、電話がありました。相手は息子をかたる犯人で「困ったことがあり、相談したい。明日連絡する」とのこと。今思えば、「電話番号が変わった」「風邪をひいている」などと話していたので、不審な点は

くつもあったんです。

翌朝、息子の妻に連絡したところ、「夫が風邪気味なんです」と話を聞きました。たまたま状況が重なったこともあり、完全に息子だと信じ込んでいました。

その後、「友人と一緒に株をして1,000万円損をし、友人が会社のお金を使い込んだ。今日中に誠意を見せないと大変なことになるから助けて」と連絡が。迷った末に、普通預金から下ろせる分だけを渡すことにしたんです。

急いで銀行に行き、引き出しの手続きをしましたが、私の様子を見て、銀行員が「おかしい」と感じたようです。別室に招かれ、その場で息子の会社に電話し、確認を取ってくれました。息子は通常通り出社していて、そんな電話はしていないとのこと。寸前のところで止めてもらい、事なきを得ました。本当にほっとしました。銀行の方にはとても感謝しています。

犯人の手口はとても巧妙。今ではナンバーディスプレイでの電話番号の確認や、自動通話録音機を付けるなど、対策するようにしています。

